

②稲・麦・大豆の2年3作体系の取組

有限会社高ライスセンター 代表取締役 佐々木教喜氏（南相馬市原町区）
福島県相双農林事務所農業振興普及部 永井華澄技師

「水稻→小麦→大豆」の2年3作体系で作付を行っています。大豆の平均収量は約145kg/10a となっていますが、収量は年により波があり、平年では220kg、うまくいかない場合は100kg 程度といった状況です。

麦の刈取り、ほ場の耕起、大豆の播種作業は社員総出で同時に行っており、本年は6月いっぱいまで行っていました。播種が遅くなると生育量が足りなくなるので、遅くても7月はじめには終わらせるようにしています。

肥料は基肥のみで追肥は行っていないが、稲・麦・大豆2年3作体系で地力は保たれていると考えています。特に小麦については作

付開始当初の平成12年度頃は400kg/10a 程度でしたが、最近は560kg/10a と増加傾向となっています。

生産物については、大豆はJAを通して卸業者の武陽食品(株)さんに出荷しています。小麦（品種：きぬあずま）は30トンくらいを自社加工して「多珂うどん」として販売しています。震災前は生産したほぼ全量の120トンをうどんに加工していましたが、風評被害や人が戻らないことによる需要量の減少から、なかなか回復していません。



＜高ライスセンター佐々木代表取締役＞

東北大豆セミナーin ふくしま 現地調査

稲・麦・大豆の2年3作体系の取組

1 (有)高ライスセンター

- (1) 所在地：福島県南相馬市原町区高字阿弥陀前8
- (2) 法人設立：平成14年3月
- (3) 代表者：代表取締役 佐々木教喜氏
- (4) 構成員：社員7名

2 経営内容

(1) 経営面積（平成29年度）

- ①農業生産 水稲（移植）：約16ha、
水稲（乾田直播）：約36ha、水稲（湛水直播）：約19ha
大豆：29ha、小麦（平成29年産）：25ha
- ②農産加工 「多珂うどんの生産・販売」（年間生産量：約15t）

(2) 作付け体系

- ①作付体系では「水稲→小麦→大豆」の2年3作体系を確立している。
- ②大豆は平成14年度から大麦跡狭畦栽培で作付を開始し、現在は小麦跡作付で約23haにまで拡大している。品種は主に「タチナガハ」であり、今年度から「里のほほえみ」の作付けも開始した。平均収量は約145kg/10a。
- ③水稲直播栽培は平成8年から取組を開始し、平成29年度約36haにまで拡大している。乾田直播のほか、湛水直播では鉄コーティング直播やべんがらモリブデン直播にも取り組んでおり、各々のほ場条件を考慮し、直播技術のメリットを活かしながら省力的な米生産に取り組んでいる。
- ④平成8年から大麦（飼料麦）の作付けを始めた。平成12年度から小麦へ切り替え始め、平成29年産小麦では約25haにまで拡大している。小麦の収量は、作付開始当初は約400kg/10aであったが、約560kg/10aにまで増加している。品種は現在主に「きぬあずま」である。
- ⑤小麦と大豆は水稲用の農業機械が使用できるため、過剰投資の軽減と機械の有効利用に繋がっている。ほ場のブロックローテーションを実施している。

麦跡大豆「タチナガハ」の栽培概要（平成30年産）

1 市町村地区：南相馬市原町区高 生産者：(有)高ライスセンター

2 耕種概要

(1) 品 種：タチナガハ

(2) 土壌の種類：灰色低地土

(3) ほ場づくり：6月18日 麦刈取

6月19日 耕起

6月21日 ほ場周囲に明きょ（排水対策）

(4) 基 肥：6月21日 ほほえむ444 15kg/10a
(N・P・K=2.1-2.1-2.1 kg/10a)

(5) 播 種 日：6月21日 播種量 7kg/10a、条間 40cm

(6) 雑草防除：6月22日 エコトップ乳剤

7月19日 大豆バサグラン液剤

ポルトフロアブル

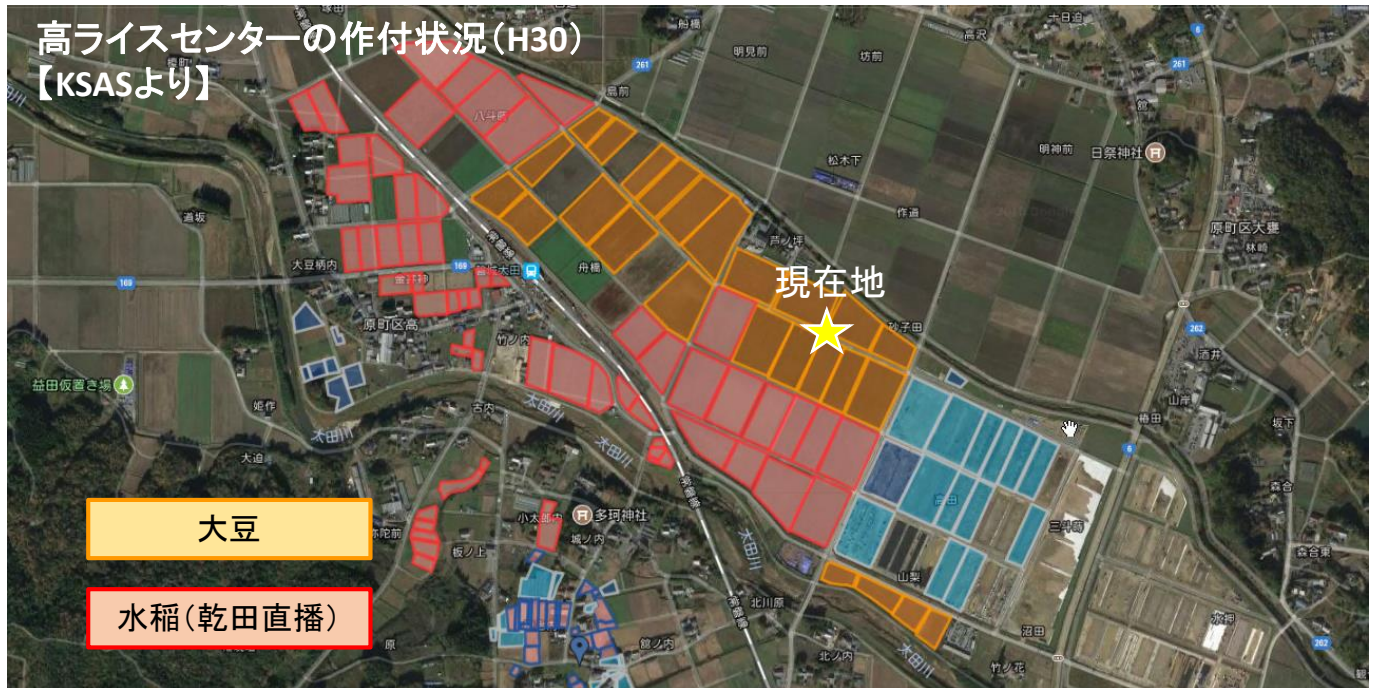
3 生育経過

播種日：6/21 出芽期：6/27 5葉期：7/19 開花期：8/1



稲・麦・大豆の2年3作体系の取組

○有限会社高ライスセンターでは、南相馬市原町区高地区で、平成14年度から水稻→小麦→大豆の2年3作体系を実施しています。



水稻



小麦



大豆

